

高

校時代の部活仲間Nが家に遊びにきた。Mは保育士の勉強をしている。

授業の一環で保育園に実習に行ったときのことだ。今回は2歳児の子供たちのクラス。「それでは、子供たちと遊んであげてください」。そんなこといわれても実際難しいんだよなあ、と思いつつ、根は子供好き。すぐに子供たちとうちとけた。

そこへ一人の男の子が近づいてきた。

「しりとりしよつ、しりとりしよつ」

どうやら、しりとりがしたいらしい。

「いいよ。それじゃあ、しりどりの『り』で『りす』！」

しかし、その子は、「しりとりしよつ、しりとりしよつ」と言い続けている。

「うん。だからやろうよ。次は『りす』の『す』だよ。」しりとりしよつ、しりとりしよつ」。この繰り返し。

こんなやりとりをししばらくした後、男の子はちがう人のところへいつ

しまった。いった先でも、「しりとりしよつ、しりとりしよつ」と話しかけている。しかし、どこへ行っても対応は一緒。皆に言ってみわった後、最後に保育園の先生のところへ近寄って、言った。「しりとりしよつ、しりとりしよつ。すると先生は「あら、Aくん。向こうでみんなと一緒に遊びましようか」。「うん!!」。さらっと方向転換させ

た。やっぱり先生はすごい。でもなぜ、Aくんはあんなにしりとりをしたがっていたのだろうか？

どうやらAくんは、最近「しりとり」という言葉を覚えたらしい。新たに言葉を覚えたのがうれしくて、その言葉を使いたくてたまらなかつた。そこでみんなに「しりとりしよつ」と言ってみわった。

しかし、しりどりのやり方はまだ知らなかったのだ。だから、相手が実際

にしりとりを始めても、「しりとりしよつ」としか言わなかったというわけだ。

そんな話を、近所の公園で遅めの朝食をとりながら話してくれた。昨日は遅くまで語らってしまった。今日は日曜日。家族連れがたくさんいる。昨晩、雨でも降ったのだろうか。水たまりがキラキラと光っている。

「そういえば私も昔、星マークが描けるようになったときは、そればかり描いてたなあ」と昔を懐かしんでいると、姉弟とおぼしき子供がかけつけてのが見えた。

「何して遊ぶ？」

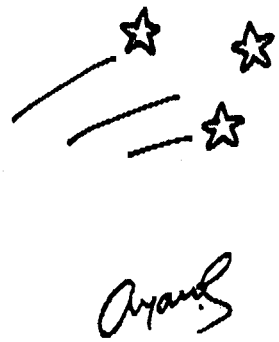
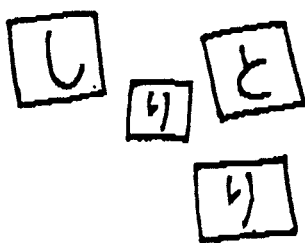
「じゃあ、水たまりで遊ぶ？」

水たまりさえも遊び道具にしてしまふ。そんな子供たちに

感心しながら、私たちは朝食を終えた。

(夏)

「しりとりしよつ、しりとりしよつ、しりとりしよつ」
2歳の坊やに
教えてもらった感動世界



Ayana S

11月6日、開始時刻の1時間

40分前。「『私以外の新人は教育が必要』なんてカッコいいよねえ」。にわか片山さつきファン

のS子は、早くも興奮状態でうずうずしている。「だって、コーデイナーは筑紫哲也だよ！片山さつき、

佐藤ゆかりが来るんだよ！行かない手はないっしょ？」。新聞で小さな

広告を見つけたその日から、興奮を抑えきれなかったような風情である。

大隈講堂の前には、すでに列ができて始めている。早稲田大学大学院公

共経営研究科学生会主催のフォーラム「女たちは未来を拓けるか？」に参加しようと集まった人たちだ。列

は校外にまで及び、最後尾はわからないほど。並ぶのがあと1時間遅

かったら、中に入るのもアブナかった。1時間以上もS子と話していたら、

無駄に週刊誌的な片山さつききの知識が豊富になってしまふ……と恐れて

いたMを助けたのは、講堂前ステージの2つの催しだった。早稲田の

Wを人間ピラミッドで作る、アクロバットなチアリーディング「ファル

コンズ」の名演技や16人の早大生が11月の木枯らしの中、ふんどし姿で

踊りだす「男祭り」なるものを見ていたので、時

間が経つのはあつという間だった。「白門祭もこ

れくらいやらなきゃね」。ほおほお、とSは感心して携帯で何枚もパチリ、

パチリ。席は、前から4列目のど真ん中。

これには2人もニンマリ。取材陣もたくさん集まっている。フォーラム

参加議員は、筑紫哲也の右に民主党の小宮山陽子、

西村智奈美、蓮舫の3人、左に片山さつき、佐

藤ゆかり、西川京子の3人の計6人。女性議員ばかりの討論会はとて華

やかで、それぞれの服装がはえた。総選挙の後、テレビでやたらに女性

議員の服装チェックがされているのも無理はないかも……。みな若々しくイキイキとしていた。

「自分が内閣入りしなかったことについて、私の方がよっぽど適任なのに、と思っただけどうか？」。しよっぱなから、自己紹介を兼ねつつ、議

員に挑発的な筑紫哲也の切り込みに、大討論への期待が高まった。



いよいよ討論の幕開けである。「これまで、雇

用などのさまざまな面で、女性が十分な社会進出を

してきたと思うか？」——働く女性の憧れのような6人ともがNO、と手

を挙げなかったのは意外だった。実際のデータに基づくだけでなく、彼

女たち自身の、今までの苦勞が垣間見えるような沈黙の回答だった。

議論は、今年、日本が上位10位から転落した人

間開発指数(平均寿命や就学率、1人当たり国内総生産から割り出すもので、一位

は五年連続ノルウェー)の話題から、男女共同参画社会基本法、女性の雇用形態に関して、少子化問題へと深

まっていた。自民党・西川京子が「子供には母親が必要」と言えば、「世代の違い

でしょうか、私は別に母親である必要はない、父親でもいい、近所の人

でもいいと思うのです」と民主党の蓮舫。逆に、民主党、西村智奈美が、

「まあ中には、比例第一位で入った方もいらっしやいます」とチク

リと言うと、対する自民党・佐藤ゆかり、「私は、きちんと相応の惜敗

率で通りましたから」と応える。見物だった。議員たちのコトバの

やりとりは歯切れがよく、どう有権者に自分をみせていくかを常に考えているのだろう、という印象だ。

最後は、党は違えども、女性として求めているモノは共通している、その点では協力していきたいと一致した。女性議員が増えたことによつて、お堅い議員の言葉遣いが、やわらかく口語的になってきた、と筑紫哲也は語った。女性の国会進出は政治の文化をも変えていくのだろうか。「すごい良かったね！ ああ面白かったあ!! あんな女になりたいもんだー」。S子は興奮冷めやらぬようす。あんなに楽しみにしておきながら、途中、まどろみながら聞いていたじゃないの、と言いかけてやめた。

そういえば、入閣した猪口議員のご主人は猪口孝中央大学教授。妻が大臣の教授の心境はいかに? けっこう大変だろうな、と思いをめぐらせながら大隈講堂を後にした。

文中敬称略 (明)

2人の刺客議員ワセマに現る!! 女性議員大討論会